

未来を創る思いやり

(原文)

佐々木 杏 (14歳)

東京都

東京学芸大学附属世田谷中学校

今、世界には数多くの課題があります。日本では先月、九州地方で大きな地震がありました。テレビで、崩れた家々や避難生活を送る人々に様子を見る度に胸が痛みました。地震大国の日本では震災復興は大きな課題です。世界規模においては、じわじわと進行する地球温暖化や宗教間の対立による紛争、食糧格差など。到底数え切れません。勿論、堺中の多くの人々がそれらの課題に真摯に向き合い、一つ一つ解決してこうと努力していますが簡単なことではありません。全てを解決するには、とても長い年月を要するでしょう。

これから大人になり未来を担っていく私たちには、それらの課題を解決していく力が求められています。その上で必要不可欠なのが相手を思いやる力だと私は思うのです。

例えば、先に挙げた食糧格差は非常に重要な問題です。地球上には今日も飢えに苦しむ人々とありあまる食料を無駄にしてしまう人々が共に暮らしているのです。これは私たちの想像以上に深刻な事です。けれど相手を思いやる力はきっとこれを解決することが可能です。飢える人々を思いやる支援の輪が広がり、手を差し伸べることができれば、食糧格差は改善されます。

宗教間の紛争も見過ごせない課題です。どんな人であっても信仰心は皆同じであるはずなのに、なぜ信仰の対象が違うといがみ合ってしまうのでしょうか。もっと互いを思いやり尊重すべきです。自分が自分の信じる神を崇めるのと同じように、相手も信じる神を崇めているのだということを理解すべきです。自分の信じる者や好きなものをけなされれば、誰でも嫌な気持ちになります。相手を思いやることができれば、自分がされて嫌な事を他人にしません。

地球温暖化問題。これは非常に大規模な問題です。これについては人間が人間を思いやるだけでは足りません。私たちは様々な生物のことも考える必要があります。地球の温度が上がれば南極や北極の氷が溶けてしまうということは容易に想像できます。すると危機にさらされるのは、ホッキョクグマやペンギンなどの動物たちでもあるのです。彼らに地球の温暖化について非はありません。地球を脅かしているのは人間です。地球を汚してしまった人類には動物をはじめとする地球上の生物たちを思いやる義務があるのです。そう考えたなら、もう軽々しく地球を汚すことはできません。

このように思いやる力はきっと、世界の課題を解決する鍵になるはずです。ではその力はどのように学べばいいのでしょうか。学校で学ぶ事は出来ます。でも、先生や誰か他人に教えてもらうこと

はできません。なぜなら、相手を想う力は誰かから教わって得る力ではなく、自ら主体的に学ぶ事で得られる力だからです。

思いやりの力を学べる場所は学校だけではありません。「学ぼう」という意欲を常にもち、アンテナを張っていれば、生活の全ての場面において思いやりの力を養うことができます。また、この力は学生や子供だけが学べるものではありません。老若男女、全ての人が一生涯をかけて学ぶことの出来る、学び続けるべき力なのです。

日本における九州地方での地震ではお互いを思いやる人々が助け合う姿が多く見られました。壊れてしまった家の片づけや食事の配給、物資の輸送のために日本全国から大勢の人が集まりボランティアを行う様子は大きくメディアに取り上げられました。悲惨な地震の様子は私の胸をしめつけましたが、人が互いを思いやり、支え合う姿は私を温かい気持ちにしてくれました。私に、思いやりの力は何にも代えがたいものなのだと教えてくれました。

人と人とが人種や宗教の垣根を越えて互いを思いやり、また生物上の違いをも超えて動物や植物にも温かい心をもって接することができたなら、地球という星の上でみんなが幸せに暮らすことができるのだと思います。そのために私は「相手を思いやる事」と「学び続けようとする事」を忘れないようにしたいと思います。